

“釣った魚をあげるのは…”

自分の趣味の一つに海釣り（船に乗って行きます）があります。25年以上イサキという魚を主に狙って釣りに行っています。始めたころは、全くダメダメで周りの人が、たくさん釣っていても自分だけつれない・・・そういうことがよくありました。ときどき、釣れない自分を見かねて、魚を分けてくれる人もいましたが、それで喜んでいるとまた次も自分だけが釣れないということがありました。その後、自分でどうしても釣れるようになりたくて、口うるさい船長さんで有名な船に通い、船長さんや周りの上手な人に聞いたり、その人の釣り方を見て真似たりするようにしました。そのうち徐々に自分である程度釣れるようになり、今では、その日の海の状況に合わせて釣れるようになり、だいたいクーラーボックス一杯（70匹以上）釣ることができるようになりました。なので、今は、釣りに行くと逆に周りの人や船長さんから聞かれることも多くなりました。

スポーツや勉強、仕事でも困っているときに誰かにやってもらいたいときはあります。ただ、誰かにやってもらったら次も同じ結果を繰り返すだけなのです。例えば、バスケットボールの練習、2人でフリースロー30本決めたペアから休憩というメニューがあったとします。あなたと一緒に組んだ人がフリースローを得意としていて、あなたが5本しか決めていないのに25本も決め、あなたたちのペアは休憩になりました。そこであなたがどう思うかが大切なのです。「早く休憩出来てラッキー」、「いい人とペアを組めてよかった」ですか？・・・もし、こう思ってしまった人は、残念ですが、次の日の練習でも同じ結果になります。もっと言えば半年後の練習でも同じ結果になるでしょう。「相手の5分の1しか決められなかった・・・悔しい、いつか追いつき、追い越したい」という気持ちがあれば、結果は変わるでしょう。今の皆さんは、どちらですか？

では、今度は魚を上げるほうの人で考えてみましょう。たくさん釣れたから、釣れていない人がかわいそうだから、魚をあげる・・・その時は相手にとっても助かるでしょう。しかし、先を考えるとどうでしょうか？いつもその人は魚をもらえるわけではありません。長い目で見ると魚をあげることよりもっと大切なことがあります。それは魚の釣り方を教えてあげることです。そうすればその人一人で釣りに来ても魚をゲットできます。これは皆さんの日常生活でも同じです。困っている友達、後輩がいたら代わりにやってあげたくなるかもしれませんが、でもそれは、友達や後輩が今後困ることになるかもしれません。なので、安易に代わってあげるのではなく、どうすれば友達や後輩が今後困らないかを考えてあげることが大切です。要するに釣った魚をあげるより、魚の釣り方を教えることが大切なのです。ただ、本当に友達や後輩が切羽詰まって困っているときは別ですが。うちの教育目標の一つが“自律”です。その目標を達成するためにも、安易に魚をもらおう、困っている人に簡単に魚をあげる人にならないように頑張ってもらえると嬉しいです。